

COE-INES Business Trip Report

期日：平成 17 年 10 月 22 日～10 月 30 日

出張者：原子核工学専攻 博士後期課程 3 年 三浦照光

出張先： オブニンスク工科大学（Obninsk State Technical University）

『9-Th International Conference “Nuclear Safety & Nuclear Education”』及び『1 St Russia- Japan Workshop “Russia-Japan International Research Cooperation and Nuclear Education Toward Innovative Nuclear Energy Systems”』参加報告

オブニンスク工科大学で開催された『9-Th International Conference “Nuclear Safety & Nuclear Education”』及び『1 St Russia- Japan Workshop “Russia-Japan International Research Cooperation and Nuclear Education Toward Innovative Nuclear Energy Systems”』に出席し、1 件の研究発表とパネルセッションでの発表を行った。

『9-Th International Conference “Nuclear Safety & Nuclear Education”』は 24～27 日にかけて 4 日間開催された。初日はオブニンスク工科大学の Palace of Science（講演用などのホール）にて Plenary Session が行われ、東工大より関本教授、斉藤助教授の他、オブニンスク工科大学の Kazansky 前学長をはじめ IPPE や IAEA より多数の発表が行われた。ロシア側より熱源用としての原子炉利用に関する発表が複数あり、日本とは違うロシアの原子力事情が感じられた。

続く 2 日間はオブニンスク工科大学の一般教室を用いて、個人の研究発表がなされた（図 1）。発表会場は 4 ないし 5 室用意され、Fundamental of Nuclear Safety や Nuclear Education といったテーマごとに分かれて多数の発表が行われた。参加者の多くはロシア及び近隣諸国からの参加者であり、参加者を見る分では国際会議というよりはロシア国内の会議のようであった。



図1、発表会場の様子

私の発表は 25 日の午前中に予定されており、『Polonium Contamination Removal by Formation of H_2Po 』のタイトルで、水素雰

囲気でのポロニウム水素化物生成によるポロニウム汚染除去実験についての発表を行った（図 2）。ポロニウム水素化物の生成によるポロニウムの除染方法は、現在検討されているポロニウムの除染方法としてはまったく新しいものであり、実験においても効果的な除染効果は未だ得られていない。今回の発表では研究成果を報告すると共に、ポロニウム汚染に関する研究実績を有するロシア側からこのような新たな除染方法の提案に関してどのような反応が、また何か研究上役に立つ提案が得られるかどうかを期待してみた。しかし、期待したような提案などは無く、ポロニウム研究を行っている事に関して好意的な反応が得られたのみであった。

今回の国際会議では、参加者の多くがロシア及びその近隣諸国からの参加者だった為か、ロシア語/英語通訳が特別に用意された（図 3）。その為、多くの発表ではロシア語の発表の後に英語での通訳（ま

たはその逆)がなされ、発表には通常の倍以上の時間が必要ようになっていた。私の場合、通訳さんに上手く英語が伝わらず、詳しく説明している間に更に時間を費やしてしまった。このような発表スタイルの場合では本当に必要な事しか話す時間が残っていない為に、かえって自分の発表したい事を的確に話せる事が出来て良いのではないかと思う。私の場合は、そのまま英語をロシア語に通訳してもらえるものだと思っており、通訳さんに説明する時間までは想定していなかった為、発表に思っていた以上に時間がかかってしまった。

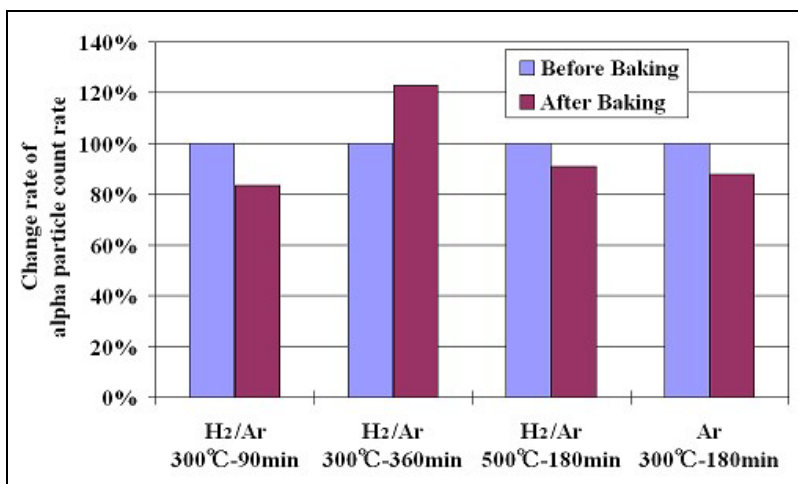


図2、実験結果(水素雰囲気における加熱後の線計数率の推移)

国際会議の翌日は、オブニンスク工科大学と東工大 COE との間で『1 St Russia- Japan Workshop “Russia-Japan International Research Cooperation and Nuclear Education Toward Innovative Nuclear Energy Systems”』が開かれた。本ワークショップは3部構成であり、第1部と2部でそれぞれオブニンスク工科大学と東工大で行われている原子力教育の内容に関する発表と質疑応答がなされた。この第1部であるオブニンスク工科大学の原子力教育に関する発表では、テレコミュニケーションシステムを用



図3、発表者と通訳の様子

いて東工大～オブニンスク間が接続され、会議の様子などが画面を通じて送受信された。これは、2大学間における初のテレコミュニケーションシステムによるワークショップの試みとなった。私はワークショップの第3部であるパネルセッションに、パネリストとして参加した。本パネルセッションでは、原子力関係の職を得る事の魅力について、2大学の教授及び学生の意見交換が行われた。私は原子力関係の職を得る事の魅力について、精神面からはエネルギー問題を解決する有力な候補としての原子力に関わる仕事を行う喜びを、研究の観点からは総合工学である原子力には研究対象が豊富にあるという魅力を、最後に個人的な観点として放射線や放射性物質を取り扱う楽しみを述べ、特に若い科学者や学生にとって原子力は非常に魅力的な分野であることを強調し、発表を終えた。

謝辞

通常ではあまり機会のないロシアにおける国際会議及びワークショップへの参加を支援していただき、COE-INES プログラムに真に感謝致します。